

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 地球温暖化に適応する栽培体系転換支援事業費補助金（R8分）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

農政部農産園芸課ぎふ清流GAP推進係 電話番号：058-272-1111(内4116)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 3,800 千円 （現計予算額： 0 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	3,800	1,900	0	0	0	0	0	0	1,900
決定額	3,800	1,900	0	0	0	0	0	0	1,900

2 要 求 内 容

（１）要求の趣旨（現状と課題）

- ・地球温暖化の影響により、令和7年の夏期は猛暑日が平年値と比較して激増しており、農業の現場で様々な課題が顕在化している。
- ・水稻では品質の著しい低下、いちごでは開花が遅れ、年内出荷が激減した他、果樹や稲、大豆などに被害を与えるカメムシ類、ハスモンヨトウが異常発生し、これまでの防除体系では十分に抑えられない状況になっている。
- ・今後も同様の気象傾向が続くと考えられ、特に夏期の高温に適応した栽培技術を取り入れた栽培体系への転換が急務となっていることから、農業者の負担を軽減したうえで技術導入を進める必要がある。

（２）事業内容

- ① 技術導入支援
 - ・農業者、農業者団体等が連携し産地単位で実施する、高温に適応する生産管理技術の導入や高温化で被害が多発する病害虫の防除技術実証の取組みを支援
- ② 品種導入支援
 - ・農業者、農業者団体等が連携し産地単位で実施する、高温耐性品種の導入実証の取組みを支援

【事業実施主体】生産者組織（品目別部会）、農業協同組合 等

(3) 県負担・補助率の考え方
県1/2以内

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	3,800	・栽培実証に必要な農薬等の資材や品種種子等の購入経費の他、ドローンを使った防除作業の委託、機材のリース費等
合計	3,800	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和8年3月策定予定）
＜基本方針4＞ 安心できる農畜水産業と農村の環境整備
（1）気候変動への対応

(2) 国・他県の状況

- ・国においては、高温対策は今後の重要課題と位置付けており、新品種の育成や栽培技術開発を進めている。
- ・他県においても、高温への対応を目的とした類似事業が実施されている。

(3) 後年度の財政負担

今後の財源の動向：一般財源

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：農業者等

- ・県内農業に適した高温に対応した栽培技術等の導入を進めるため、生産者自らが実証に取り組むことが妥当。

県単独補助金事業評価調書

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	地球温暖化に適応する栽培体系転換支援事業費補助金
補助事業者（団体）	J A、農業者の組織する団体等 （理由） 高温適応技術の実証は、J Aや農業者が実践するものであるため。
補助事業の概要	（目的） 高温環境に適応した栽培技術の導入推進 （内容） 農業者、農業者団体等が連携し産地単位で実施する、高温耐性品種の導入や高温に適応する生産管理技術の導入に向けた実証取組み及び高温環境への適応に必要な機械・施設等の導入、実証取組みを支援。
補助率・補助単価等	定率 （内容） 1/2以内、上限額500千円 （理由） 喫緊の課題であり、重点的な支援が必要であるため。
補助効果	高温に敵した栽培体系への転換を促進することで、収量及び品質の安定化に寄与
終期の設定	終期 令和9年度 （理由） 新たな技術の導入実証試験は少なくとも2年必要であり、その後、農業者の栽培体系の更新等が完了するまでの支援は不可欠である。

(事業目標)

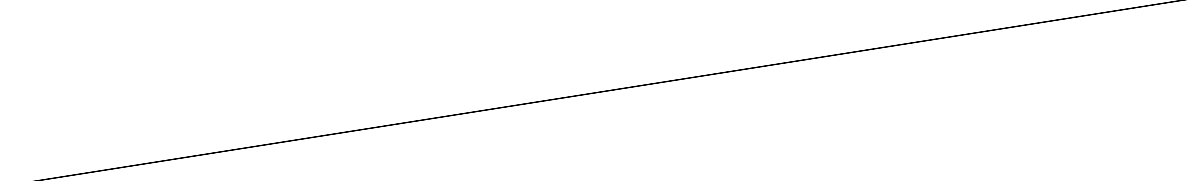
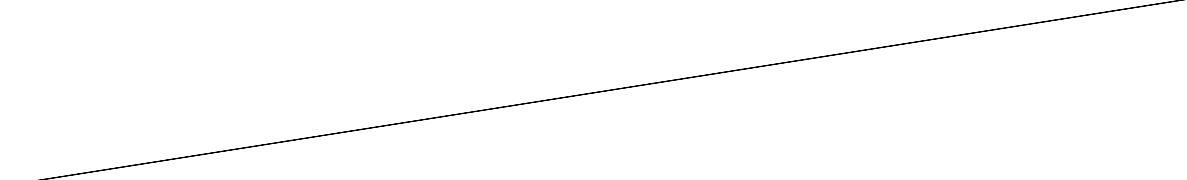
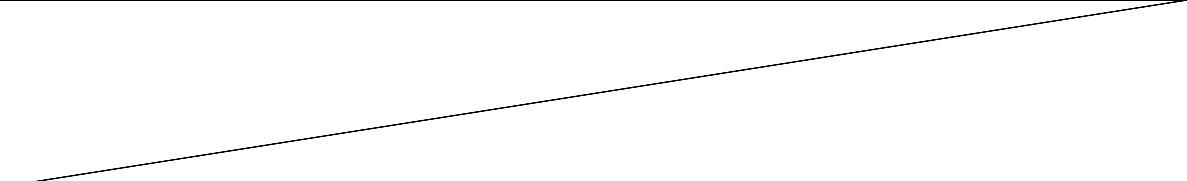
・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか 地球温暖化に適応する栽培体系への転換産地を5事例創出する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R6)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
①地球温暖化に適応する栽培体系への転換	0	—	2	5	5	0%

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度
	—	—	—

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和5年度	
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %
令和6年度	
	指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</p> <p>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	地球温暖化の影響により、夏期は猛暑日が平年値と比較して激増しており、農業の現場で様々な課題が顕在化している。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</p> <p>3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり)</p> <p>2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成)</p> <p>1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50～100%)</p> <p>0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	夏期の異常高温に対応できる技術等を現地実証でき、効果等のデータが得られた。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</p> <p>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	課題を抱えている産地がまとまって実証に取り組むことで、結果の産地への効率的な普及が可能となる。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>今後も地球温暖化に起因する異常気象は継続することが想定され、同様の課題が各産地・品目で顕在化する可能性が高い。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>国においても地球温暖化対策に力を入れていることに呼応し、県内産地においても高温対策を早急に進めるためには支援が必要。</p>
